センターだより

第88号
令和8年10月28日発行

Aomori Prefectural School Education Center
青森県総合学校教育センター
〒030-0123　青森市大字大矢沢字野田80-2
☎017-764-1997　FAX017-728-6351

あおもり教育研究発表会２０２６
～未来につなぐ青森の教育～　のお知らせ

と　き：令和８年１１月１３日（金）　ところ：青森県総合学校教育センター

≪主な日程≫

９：００～　受付開始
９：３０～　開会行事
９：４０～　２年目研究員研究発表
１１：３０～　センター研究発表①
１２：００～　昼食
１３：００～　センター研究発表②
１３：４０～　センター研究発表③
１４：２０～　講演
１５：５０～　閉会行事

≪展　示≫

展示場所	展示内容
特別支援教育課棟（１階）	特別支援教育 教材・教具展示会
中研修室前（２階）	図書資料室にある書籍等の紹介、ポスター

≪講　演≫

【演題】
「子供を主語にする主体的な学びを充実させるための学級・集団づくりを目指して」

【講師】
日本大学 生物資源科学部
教授　熊谷　圭二郎　氏



【主な役職等】
・専門は学校教育、教育心理学、カウンセリング、コーチング等。
・日本教育心理学会、日本教育カウンセリング学会、日本学級経営心理学会 等に所属。
・全国各地で講演を行うとともに論文を多数発表。多くの書籍にも執筆される等ご活躍中。
＜書籍等出版物＞
『生徒指導・進路指導の理論と実際』『教育相談の理論と実際』
『教育の原理と実践』
『開かれた協働と学びが加速する教室』
『実践「みんながリーダー」の学級集団づくり』
『教育心理学の理論と実際:発達と学習の効果的支援をめざして』
『教室「心理術」大全』

センター研究について

1.目　的

本県学校教育の課題解決や学校支援に資する実践的･先導的な研究を行うことにより､その成果が学校現場で生かされるようにする。

2.研究テーマ

一人一人の子どもを主語にする学校教育の実現に向けて

3.テーマ設定の理由

「子どもを主語にする」とは､「指導者の視点」から「学習者の視点」へ､「授業」から「学習」へ､「履修」から「習得」へ､「指導」から「伴走」へとシフトしていくことを意味している｡「『令和の日本型学校教育』の構築を目指して～全ての子どもたちの可能を引き出す､個別最適な学びと､協働的な学びの実現～」において示されているキーワードの一つでもあり､一人一人の子どもの個性やニーズを尊重し､子どもがもつ潜在能力を最大限に引き出すことを目指した教育の在り方を示している。しかし､実態としては､まだまだ教師主導の学校教育が行われており､子どもを主語とした学校教育はなかなか浸透していないのが現状である。

青森県においても､令和の日本型学校教育が浸透していくよう研究に取り組んでいきたいと考えている。次のページから各グループの研究を紹介します。

令和8年度 研究グループ

①高校教育課
【学習評価等ユニット、探究的な学びユニット、特別支援教育ユニット】
②義務教育課
③特別支援教育課
④教育相談課
⑤遠隔教育推進課・高校教育課
⑥遠隔教育推進課・産業教育課

高校教育課グループ

研究テーマ

社会を共創する学びのアップデートを目指して

【学習評価等ユニット】 柴田裕介（リーダー）、齋藤研、片山卓思
生徒の豊かな学びを見取る観点別評価の充実に向けて

【探究的な学びユニット】 青木雅俊（リーダー）、千葉靖幸、山口浩順、澤田明宏
教科における探究的な学びに関する研究

【特別支援教育ユニット】 佐々木康之（リーダー）、八木澤真奈美、秋庭潤
青森県内の高等学校における特別な配慮を要する生徒へのアプローチに係る研究

研究概要

学習指導要領の理念や社会の変化に伴う新たな教育的要請と、それに対応する中で学校現場が直面している具体的な課題を研究背景としている。また、より専門的に研究を深められるようにユニットに分かれて研究テーマを設定し、課題の研究を進めてきた。ユニット研究において、「個別の支援」「適切な評価」「探究的な学び」という現代教育の重要指標について、理念と現場の実践との間にある乖離を埋め、高等学校教育の質を実質的に向上させ、学習者が社会を共創できる人材として成長できるように学びをアップデートすることを、高校教育課全体の研究テーマとして設定した。

【学習評価等ユニット】

課題

- 形式的なものになっている
- 指導改善のための評価となっておらず、いまだに評価のための評価となっている
- 教員同士、または教員と生徒で共有できていない
- 主体的に学習に取り組む態度の評価方法に課題がある

研究内容

「思考・判断・表現」や「主体的に学習に取り組む態度」の評価について、評価方法を検討し、各教科における事例を作成する

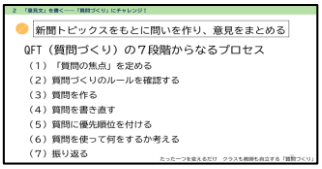
研究方法

・文献調査による事例の研究
・講座（C番台）における現場の教員への聞き取り
・各教科におけるパフォーマンス課題およびルーブリックの開発

【高等学校における探究的な学びユニット】

質問づくり（QFT）の実践事例 実践事例校・センター研修







質問づくり（QFT）に焦点をあて、実践校の事例やセンター研修での事例をまとめる。

探究的な学びの実現に向けた 協働・共創プロジェクト



全国の先生方と繋がる、探究的な学びについてのオンライン研修である。
第3回は教科における探究をテーマに、探究のカギとなる「問い」について考える。
第4回は探究の実装化をテーマに、探究文化を根付かせるためにできることを考える。

【特別支援教育ユニット】

・県内の高等学校における特別支援教育に関する課題の分析
・課題解決に役立つ情報を整理
・「特別支援教育ガイド」を作成

右のようなガイドを全4ページで構成し、高等学校における特別支援教育の充実の一助となるように作成を進めている。





義務教育課グループ

研究テーマ

個別最適な学びと協働的な学びの一体的な充実を図る授業の在り方の研究

研究概要

《テーマ設定の理由》

児童生徒の資質・能力を育成するために、「個別最適な学び」と「協働的な学び」の一体化を図り、「主体的・対話的で深い学び」の実現に向けた授業改善につなげていくことが求められている。誰一人取り残さず、全ての子どもに「主体的・対話的で深い学び」を実現できるようにしていくための視点が「個別最適な学び」のスタート地点である。「個別最適な学び」が「孤立した学び」に陥ることのないよう、「協働的な学び」と一体的な充実を図り、相互に関連付けることで学びが深まったり、新たな課題の発見につながったりすることが考えられる。そこで、小学校、中学校それぞれにおいて、複数の教科の単元（題材）づくりを通して授業改善の具体案を提案したいと考えた。

《研究目的》

小・中学校の学習指導で、「個別最適な学び」と「協働的な学び」の一体的な充実を促す授業の在り方を研究することで、「主体的・対話的で深い学び」の実現に向けた授業改善につなげる。

《研究内容》

小学校、中学校の学習指導における「個別最適な学び」と「協働的な学び」の一体的な充実を促す授業の在り方について、それぞれの教科における単元（題材）づくりを通して提案する。

メンバー紹介

【小学校】 津嶋由香、山口繁弥、安達元気、石田真大

【中学校】 津田健一郎、野呂俊光、澁谷尚志、葛西雄、石塚香織、長谷川紘一

特別支援教育課グループ

研究テーマ

省察と対話を核とした授業研究モデル「ラウンドリフレクション」の開発
～子どもの学びの事実を起点とした授業研究の在り方～

研究概要

本研究の目的は、子どもの学びの姿に基づく省察を教師同士で共有し、深めていくことのできる授業研究モデルを開発することである。

本モデルでは、バン・マーネンの省察の枠組みを基盤とし、技術的リフレクションから実践的リフレクション、さらに批判的リフレクションへと省察を深めていくことを重視している。加えて、「子どもの学びの姿」と「教師の教え」との関連を捉え直すことを通して、教師自身の実践を再考するとともに、教師集団が互いの実践から学び合う関係を構築し、省察を日常的な実践として習慣化することを目指している。

昨年度は、試行版を3校で実施し、その実践結果を踏まえて「ラウンドリフレクションガイドブック」を作成した。

今年度は、作成したガイドブックを活用し、研究協力校2校において授業研究を実施している。実践を通して本モデルの効果検証を進めるとともに、実施上の課題や成果を整理し、その結果を基にガイドブックのさらなる改善・修正を行っている。

メンバー紹介

【特別支援教育課】 小田桐直美、木村美佳子、奈良真希、間山晶子、加賀谷紀

教育相談課グループ

研究テーマ

グループ・アプローチによる安心できる学級づくりの支援
～子どもが自分らしくいられる関係性の育成～

研究概要

《研究目的》
子どもが安心して自己を表現し、他者と関わることのできる学級づくりを支援するため、グループ・アプローチの有効な活用方法を明らかにする。
子どもの思いや行動を理解し、教師が「伴走者」として関わる教育相談的支援の在り方を明確にする。
「子どもを主語にする」教育の実現に向けて、集団づくりの視点から教育相談の実践を再構築し、学校現場への還元を図る。

《研究内容》
・グループ・アプローチの理論や活用に関する文献・事例の収集
・各発達段階に応じたプログラム（例：学級活動での活用、学年別のテーマ別活動）の開発
・教育相談的支援（事前・事後の個別対応やコーディネートを含む）の在り方の検討

メンバー紹介
【教育相談課】 奈良岡洋平、新岡雄大、千葉玲奈、髙田秀行、葛西圭、齋藤香澄、鈴木真実、一戸舞祐、川村昌史

遠隔教育推進課・高校教育課グループ

研究テーマ 生徒の思考を深める遠隔授業のデザイン

遠隔授業において、生徒が自分で考え、表現し、他者の考えに触れながら、思考を深めていく授業デザインを実践・検証する。

研究概要 遠隔授業における「考える・表現する・他者の考えに触れる・考えを深める」授業の実践



考える	表現する	触れる	深める
問いや課題に対して、個人で考える	MetaMoJiを活用し、言葉・式・図等で考えを表現する	考えを共有して比較する	再考・修正を通して理解を深める

今後の方向性
他者の考えに触れる活動を取り入れることで、思考を深める授業デザインをさらに検証・実践していく。

メンバー紹介
【遠隔教育推進課】葛西裕二、成田翔、神隼司 **【高校教育課】** 竹内均、加賀利瑛、三上綾子

遠隔教育推進課・産業教育課グループ

研究テーマ　生徒の多様な学びを支える遠隔教育の実践について

本研究は、下記の改革推進計画に基づき、「個別最適な学び」と「協働的な学び」の一体的な充実を目的に、配信環境の構築に取り組んでいる。

青森県立高等学校教育改革推進計画第２期実施計画
●児童生徒の確かな学力を育むために●
個別最適な学びと**協働的な学び**の一体的充実

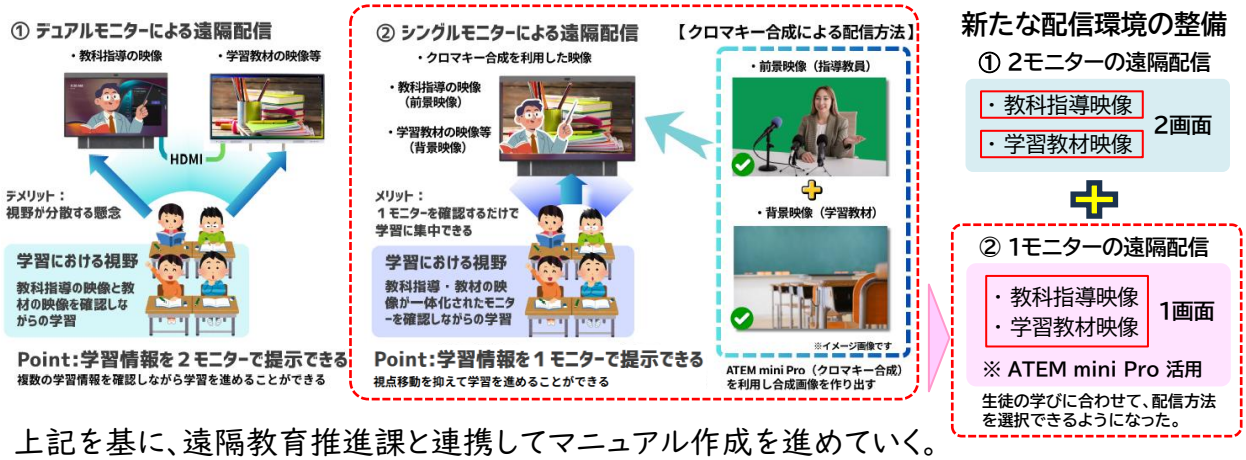
基礎学力・学習習慣の形成
教科・科目充実型を実施方針とする

＋

包摂モデルの構築
全ての生徒に**必要な学力を保障**する

研究概要　クロマキー合成を活用した配信技術のマニュアル化

〇遠隔教育における配信技術と学びの特徴（下図参照）



上記を基に、遠隔教育推進課と連携してマニュアル作成を進めていく。

メンバー紹介

【産業教育課】 越洋、田中和幸、小野育恵、西舘大輔、秋村文寿、八屋孝彦、米田文彦

こころの教育相談センターの活動紹介（教育相談課）

～日々の学びと、様々な経験やふれあいで、社会的自立を支えます～

学校に行きたくても行けない児童生徒の不安や悩みを軽減し、人間関係の改善等の適応能力を育み、社会的自立を目的に支援を行っています。

学びの時間



自分の得意科目の更なる強化や苦手箇所の克服、定期テストや進学対策など、各々の目標に向かって学習に励んでいます。指導員や担当相談員が支援や補助にあたります。

昼食・休憩後には、１５分間のパワーアップタイム（国・数・英）を設け、基礎基本の定着を目指した学習に取り組みます。



英会話の時間



ＡＬＴを招き、英語に親しみながらレクリエーション活動・創作活動を行っています。また、ＡＬＴの出身地や様々な国についての文化を楽しく学ぶ機会にもなっています。

ＮＩＥの時間

興味や関心をもった新聞記事を切り抜き、感じたことや学んだことなどを、自分なりにまとめたコメントを添えて掲示していきます。社会の今を知るとともに、郷土への理解を深めながら表現力を養っていきます。



ふれあいタイム

コミュニケーション能力や良好な人間関係を築く力を身に付けるために、人間関係づくりプログラム（対人関係プログラム、ソーシャルスキルトレーニング、構成的グループ・エンカウンターなど）を行っています。菜園活動や調理実習も行っています。





動物ふれあい体験





動物愛護センターで馬のえさやりや猫箱づくり、犬の散歩など、動物とのふれあいを行っています。動物とのふれあいを通して、心を癒し、温かな交流を図ることで、コミュニケーション能力や人間関係を築く力を身に付ける機会になっています。

文化祭

通所生で決めた「万里一空・有終完美」のテーマの下、今年度は書道パフォーマンスの発表や参加者と一緒にふれあい活動を行いました。文化祭準備から実施まで、自主性・意欲・人間関係等を育むための内容になっています。



創作活動

通所生の意欲・自主性・創造性等を育むために、様々な創作に取り組んでいます（消しゴムはんこ、フロッタージュ、コラージュ文字、ねぶた絵、棟方志功と裏彩色、絵手紙等）。また、文化祭前には会場の装飾類（文化祭テーマ、季節展示等）を創作しています。

